

参考資料3 区民意識調査（HP 公開版）結果

（1）実施目的

昨年度、区民のまちづくりに関するニーズを把握し、都市マスタープランの見直しに活用するため、区民意識調査として区民 2,525 名に対して無作為に調査票を配布し、733 名より回答いただいた。今回は、区民に対して、広く一般に意見を聴取する場として、区の HP に URL を公開する形で自由に回答をすることができる場を設け、特に文京区のまちづくりに対して意見のある方等のまちづくりに関するニーズを把握した。

（2）実施概要

HP 公開版の区民意識調査について、実施概要は以下のとおりであった。

■対象及び実施方法

区分	内容	備考
対象	区内在住の全ての方	今回の調査では、特に年齢制限などは設けていない。
回答方法	WEB による回答	1 台のデバイスで 1 回のみ回答ができる設定とした。
実施日時	2022/5/20（金）～/6/3（金）	2 週間の間、文京区の HP 上に区民意識調査に回答できる HP へのリンク（URL）を掲載した。
回答数	161 件	

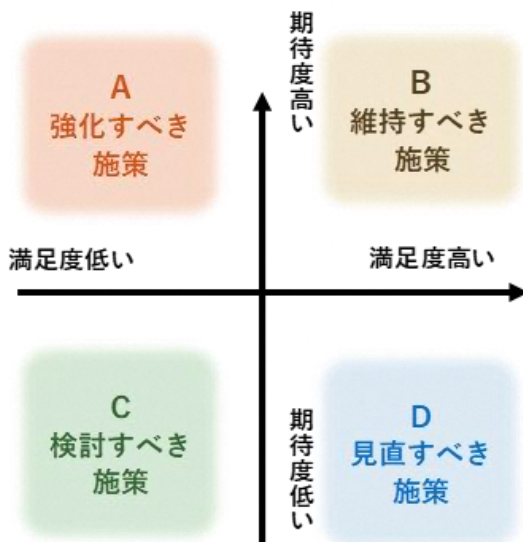
(3) 調査項目

調査項目は、以下の表のとおりとした。(無作為抽出による区民意識調査と同様の構成)

■調査項目と各項目の狙い

区分		各問を聞くねらい／改定案への反映方法等
問1	個人属性について	問2以降の設問とクロス集計することで、個人属性ごとに回答の特徴を捉える。特に、地域毎に回答の各項目の特徴を捉えることで地域毎の方針に反映できる。
問2	区の魅力について	現行都市マスタープランの区の魅力の項目ごとに区民がどの程度満足しているのか、今後どのような魅力を高めてほしいのかクロス集計(下図参照)によってA強化すべき魅力方針 B維持すべき魅力方針 C検討すべき魅力方針 D見直すべき魅力方針として捉える。これによって、現行都市マスタープランに記載のある魅力の項目や記述内容の見直しの材料とする。
問3	区の実施について	現行都市マスタープランの施策及びそれに紐づく事業について区民が具体的にどのようなものを進めてほしい(あるいは、進める必要がない)と考えているのかを「現在の満足度」と「今後の期待度」のクロス集計(下図参照)によってA強化すべき施策 B維持すべき施策 C検討すべき施策 D見直すべき施策として捉え、現行都市マスタープランの施策項目や記述内容の見直しの材料とする。
問4	今後のまちづくりの進め方等(自由記述)	以上で拾いきれない区民のまちづくりに関する細かい要望やニーズを捉える。特に重要であると考えられる項目については見直し時に今後力を入れるべき新しい項目として記載を検討する。

■クロス集計のダイアグラム

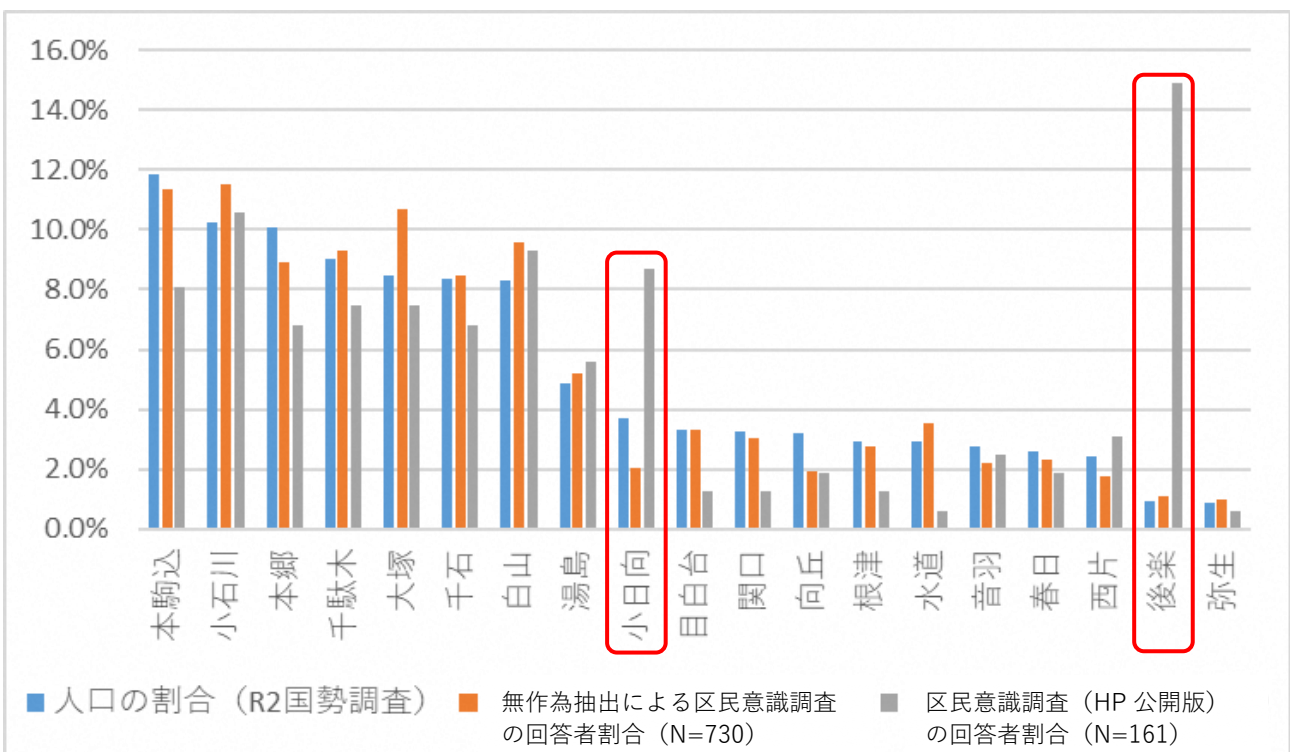


(4) 結果概要

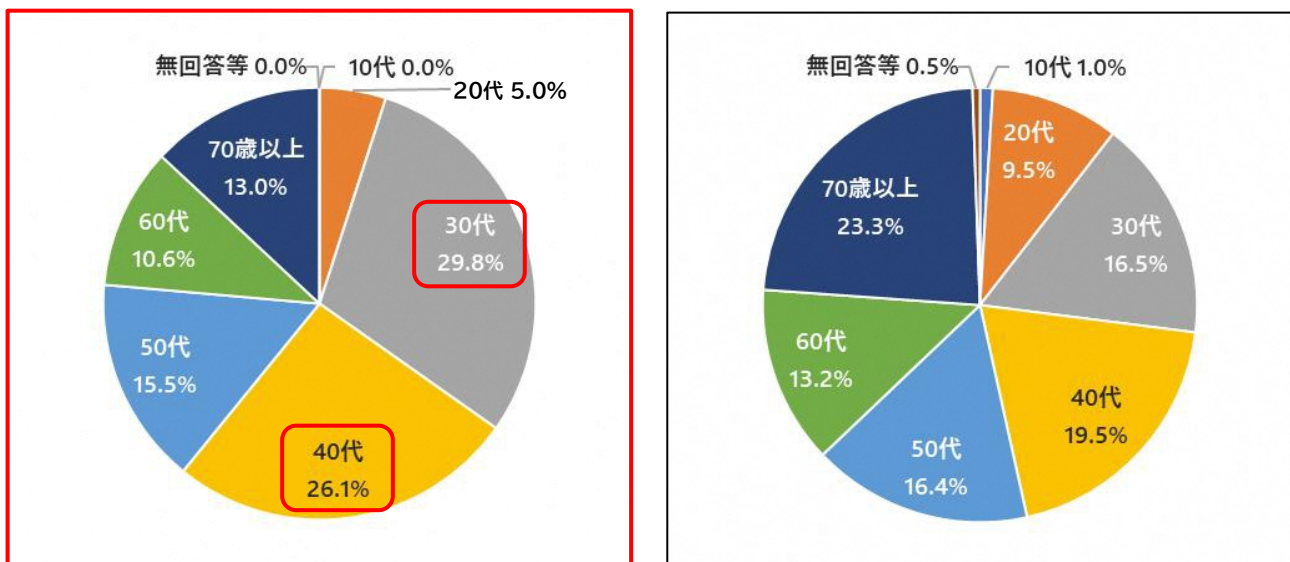
① 個人属性について

回答者の居住地について、小日向と後楽で国勢調査（令和2年）による人口総数及び、無作為抽出による区民意識調査の回答者数と大きな相違がみられる。なお、国勢調査（令和2年）による人口総数との相関係数は $R=0.48$ であり、一般的にある程度の相関は認められる。また、その他の属性は、無作為抽出による区民意識調査と概ね傾向は一致しているが、30～40代で区内の居住年数が5年～10年の会社員の回答者の割合が高く、無職の回答者の割合が低い。上記より、今回の調査は、無作為調査ではないため、回答者の属性がやや偏っていることに留意する必要がある。

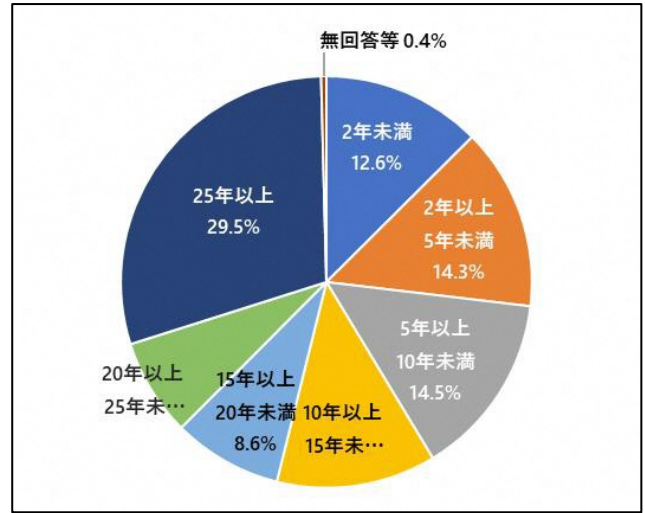
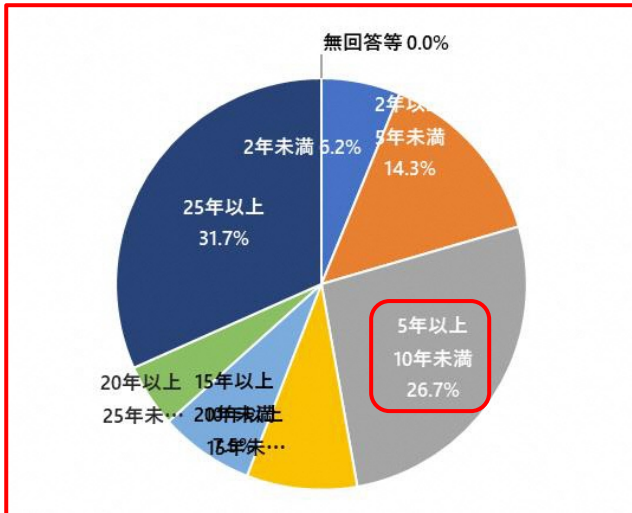
■回答者の居住地（人口総数、無作為抽出による区民意識調査、区民意識調査（HP公開版）の比較）



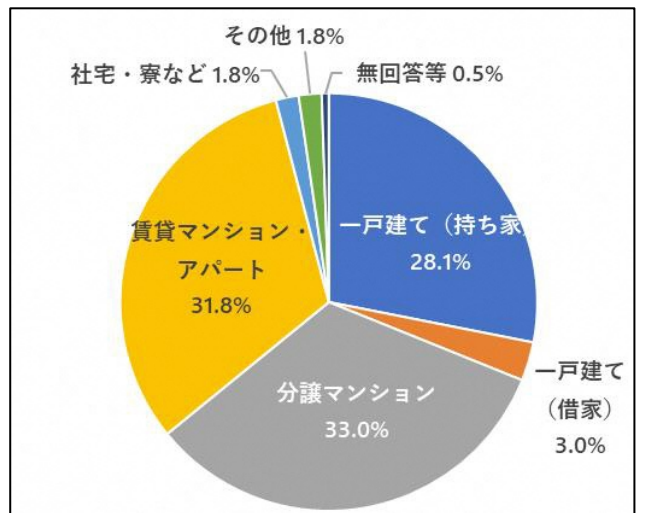
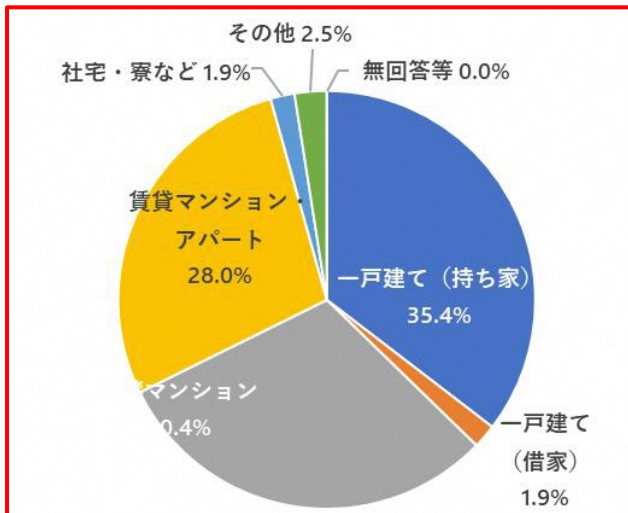
■回答者の年齢（左図(赤枠)が区民意識調査（HP公開版）、右図は無作為抽出による区民意識調査）



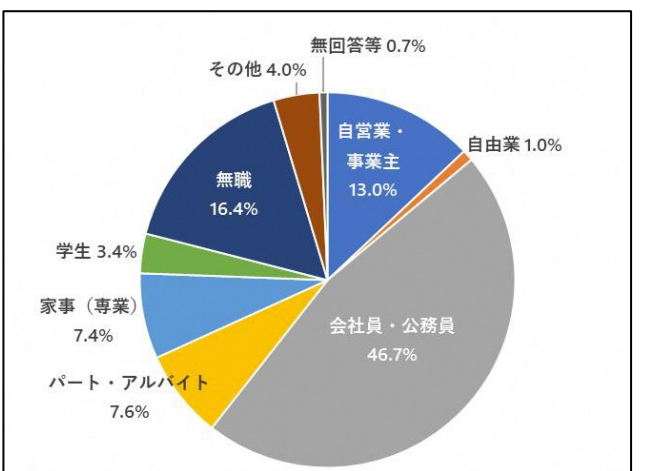
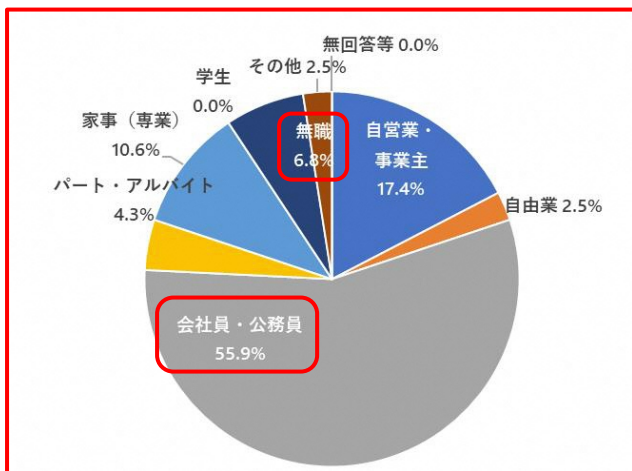
■回答者の居住年数（左図(赤枠)が区民意識調査（HP 公開版）、右図は無作為抽出による区民意識調査）



■回答者の居住形態（左図(赤枠)が区民意識調査（HP 公開版）、右図は無作為抽出による区民意識調査）



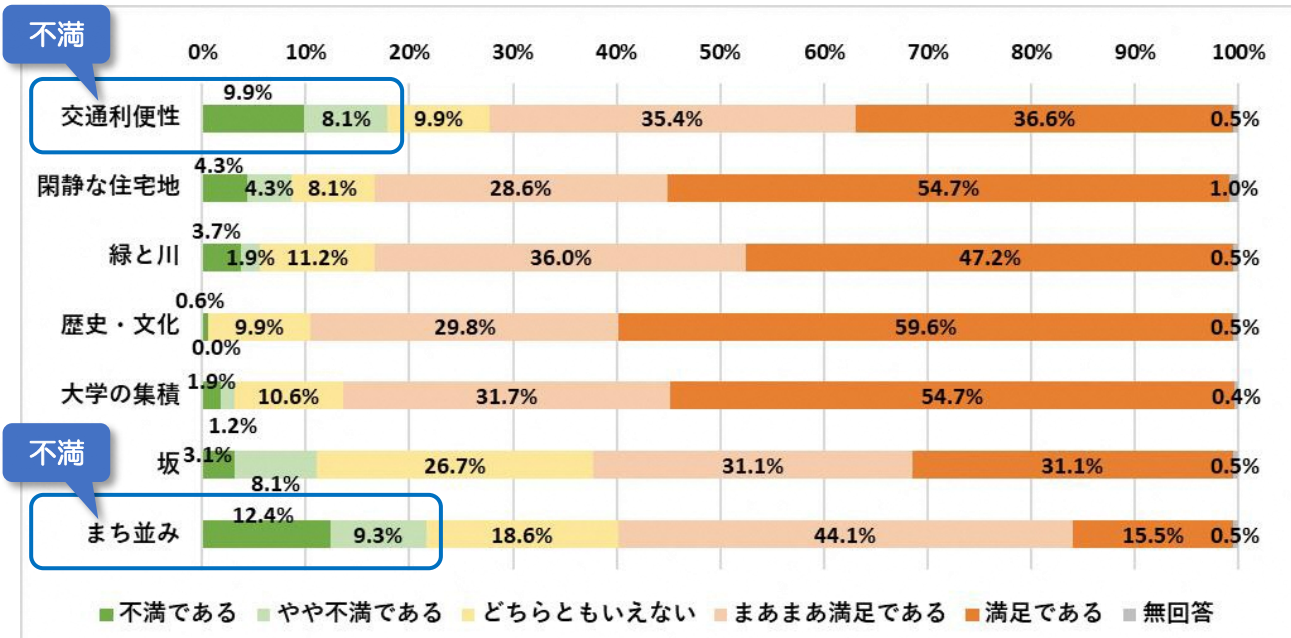
■回答者の職業（左図(赤枠)が区民意識調査（HP 公開版）、右図は無作為抽出による区民意識調査）



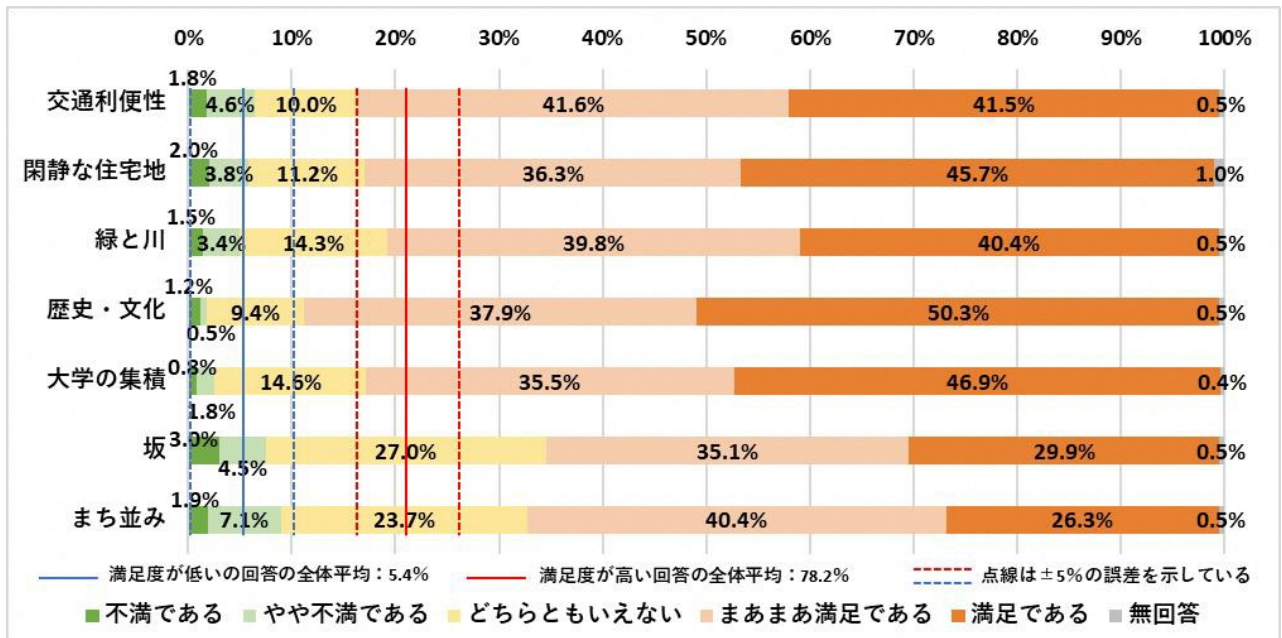
② 区の魅力に関する区民の満足度

「交通利便性」と「まち並み」に対して不満であると答えた回答者が多い。無作為抽出による区民意識調査と比較して、各項目に対する「不満」と「満足」の回答が鮮明に出ている。

■区の魅力に関する区民の満足度



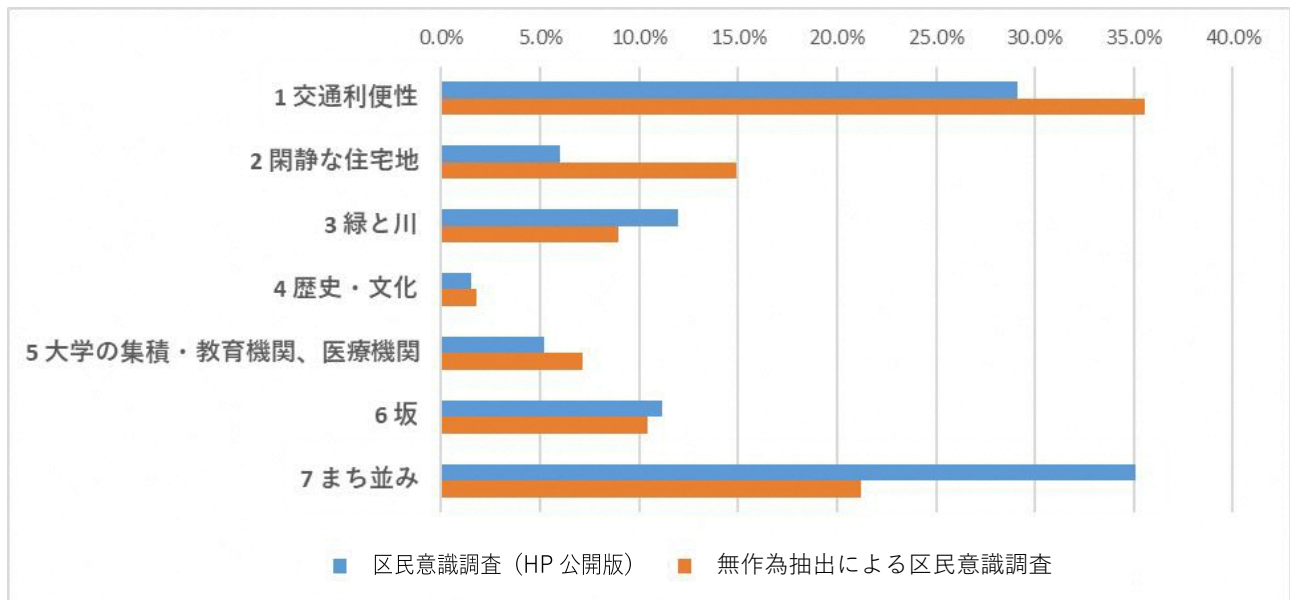
【参考：無作為抽出による区民意識調査の結果】



■区の魅力について特に不満と感ずる項目

※区の7つの魅力から特に不満と感ずる項目があれば選択

無作為抽出による区民意識調査と同様に「交通利便性」と「まち並み」について特に不満と答えた回答者の割合が高い。今回は「まち並み」について特に不満と答えた回答者が特に多い。前項の結果（区の魅力に関する区民の満足度）と概ね一致している。

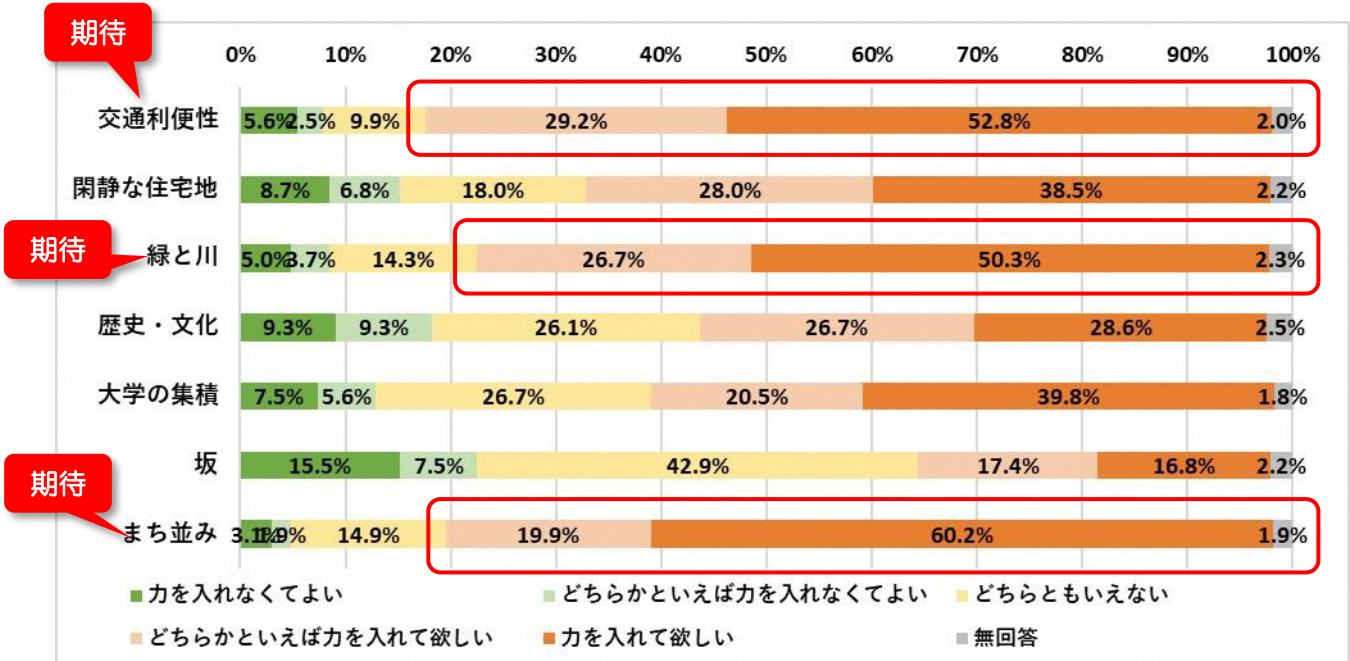


※区民意識調査（HP 公開版）、無作為抽出による区民意識調査の割合は無効な回答を除いたものである。

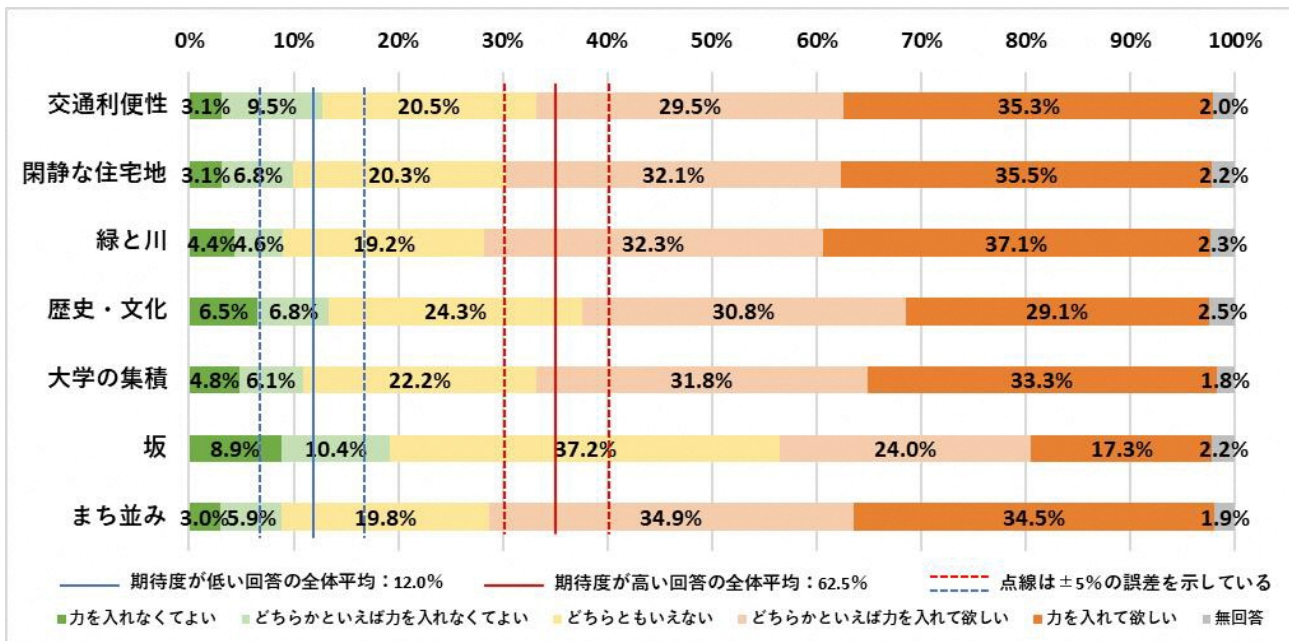
③ 区の魅力に関する区民の期待度

「交通利便性」と「緑と川」、「まち並み」に対して力を入れてほしいと答えた回答者が多い。反対に、「坂」に対して力を入れてほしいと答えた回答者は少ない。無作為抽出による区民意識調査と比較して、各項目に対する「力を入れてほしい」と「力を入れなくてよい」の回答が鮮明に出ている。

■区の魅力に関する区民の期待度



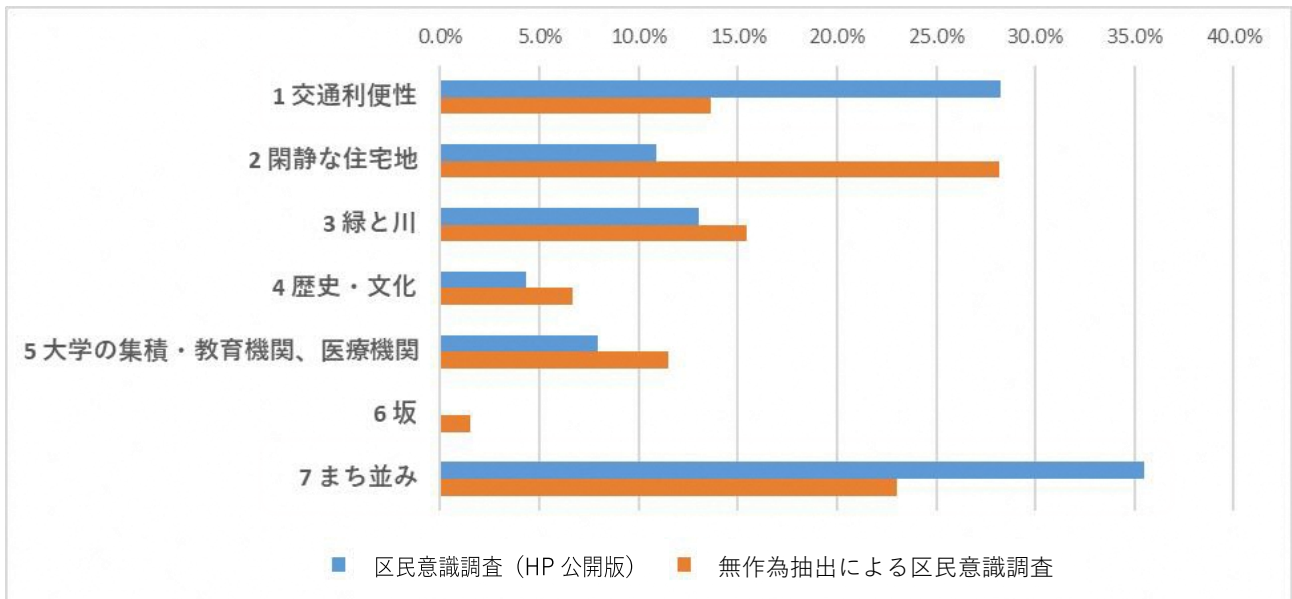
【参考：無作為抽出による区民意識調査の結果】



■区の魅力について特に力を入れてほしいと感じる項目

※区の7つの魅力から特に力を入れてほしいと感じる項目があれば選択

無作為抽出による区民意識調査では、「閑静な住宅地」について特に力を入れてほしいと答えた回答者の割合が高かったが、今回の調査では、その割合はそれほど高くない。今回の調査では、無作為抽出による区民意識調査と比較して、「交通利便性」と「まち並み」について特に力を入れてほしいと答えた回答者の割合が特に高い。前項の結果（区の魅力に関する区民の期待度）と概ね一致している。

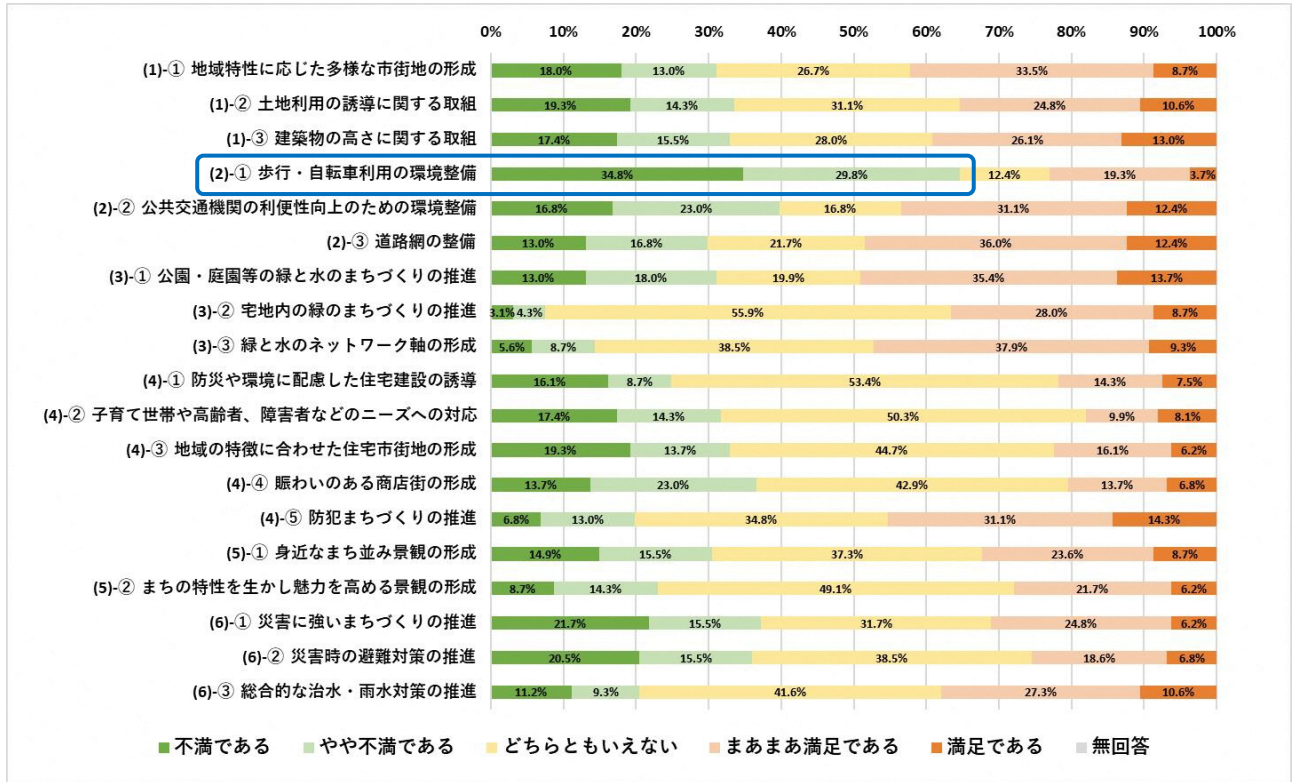


※区民意識調査（HP 公開版）、無作為抽出による区民意識調査の割合は無効な回答を除いたものである。

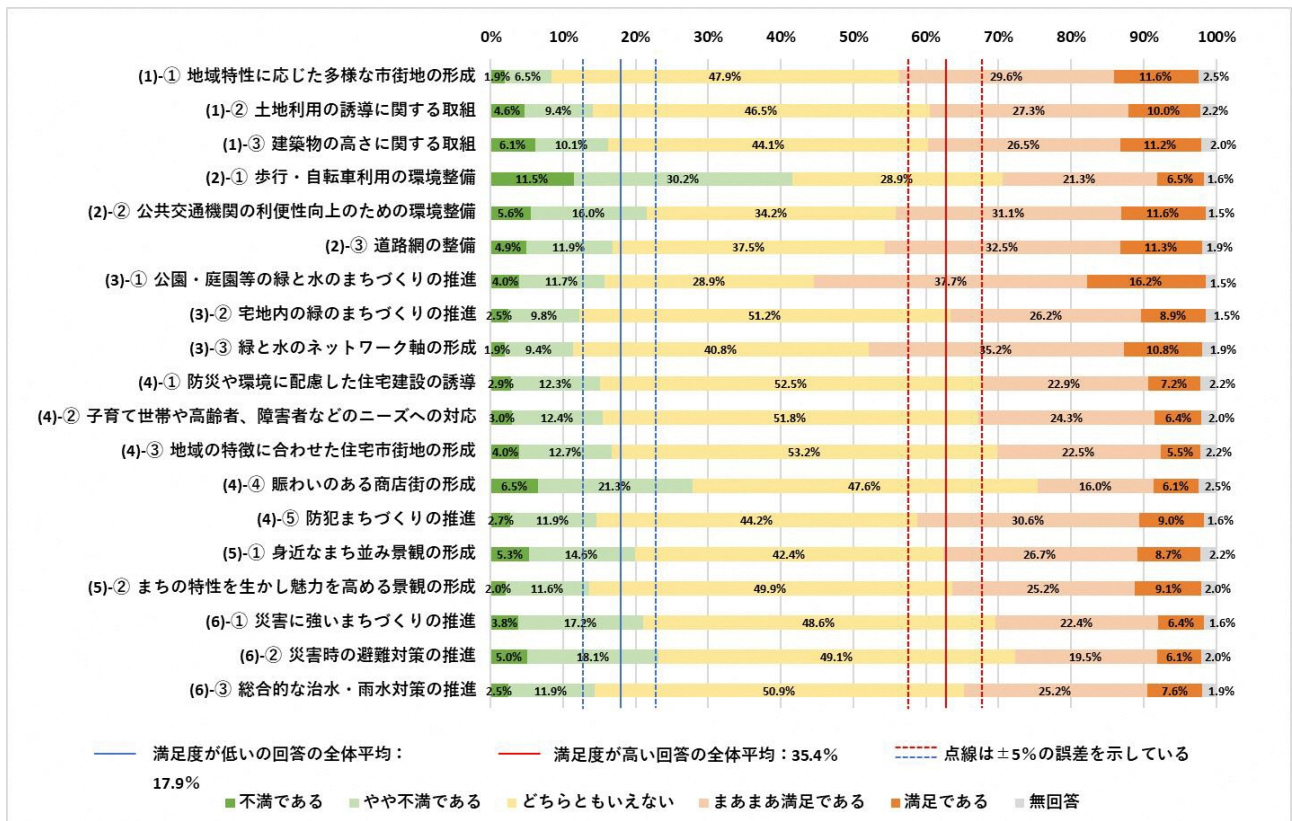
④ 区の実施に関する区民の満足度

無作為抽出による区民意識調査と同様に「歩行・自転車利用の環境整備」に対して不満と答えた回答者が多い。無作為抽出による区民意識調査と比較して、各項目に対する「不満」の回答が鮮明に出ている。

■区の実施に関する区民の満足度



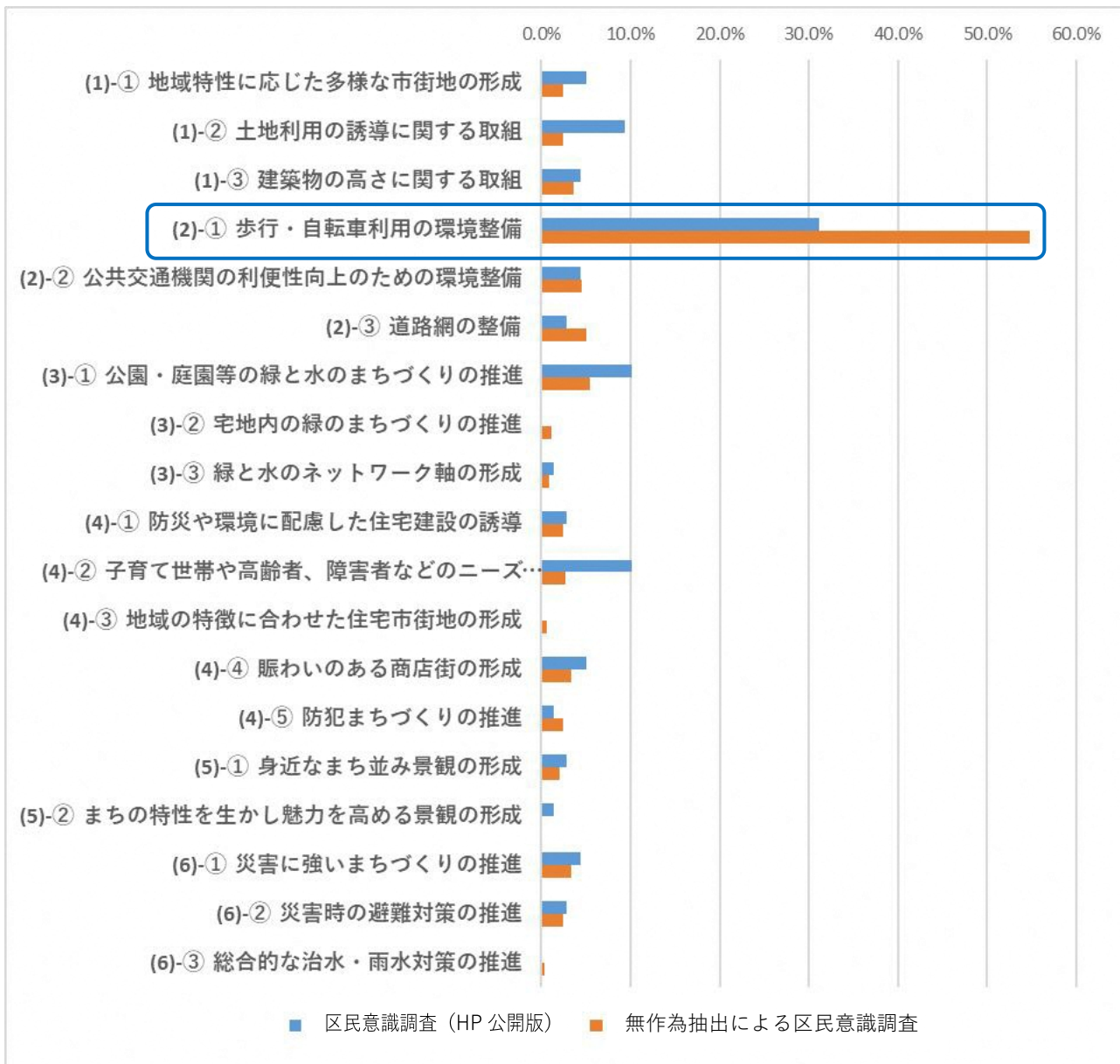
【参考：無作為抽出による区民意識調査の結果】



■区の実施について特に不満と感ずる項目

※区の実施の19の項目から特に不満と感ずる項目があれば選択

無作為抽出による区民意識調査と同様に「歩行・自転車利用の環境整備」とについて特に不満と答えた回答者の割合が高い。無作為抽出による区民意識調査と比較して、今回は「歩行・自転車利用の環境整備」以外の項目について、特に不満と答えた回答者が多くなっている傾向が見て取れる。

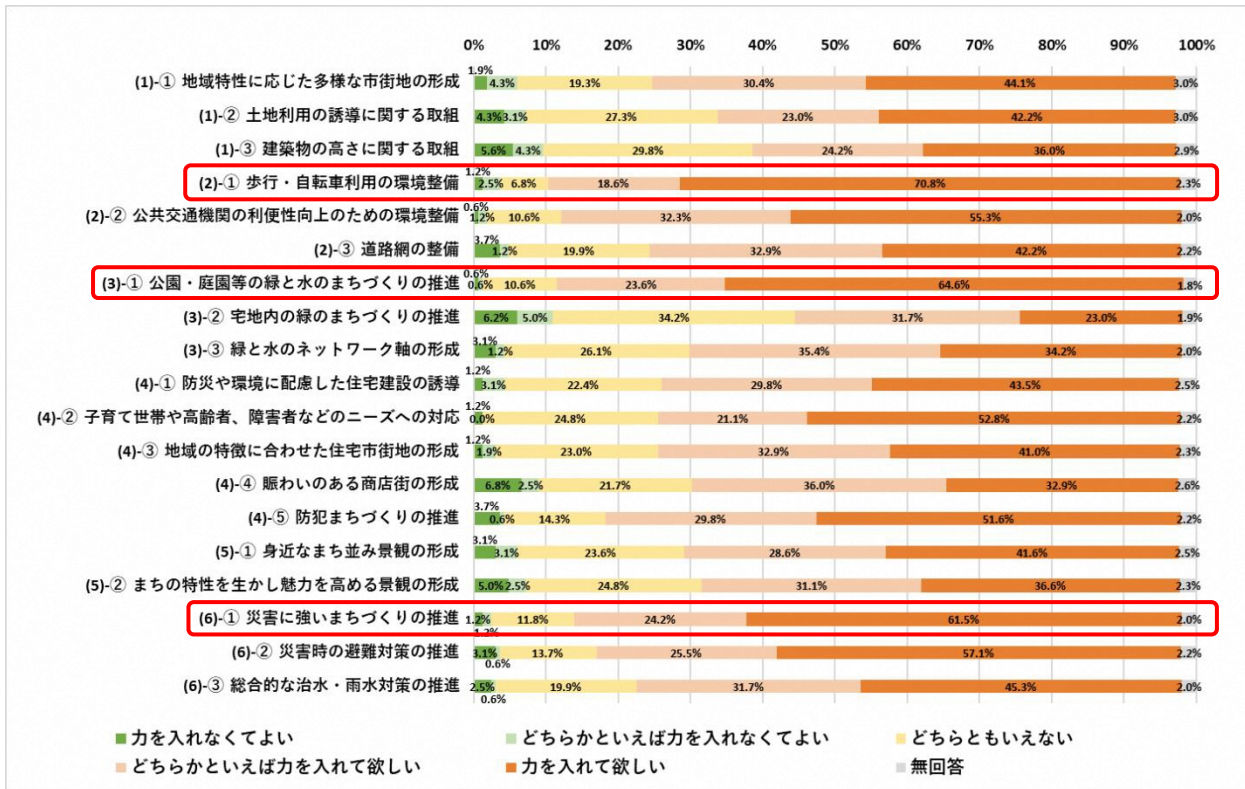


※区民意識調査 (HP 公開版)、無作為抽出による区民意識調査の割合は無効な回答を除いたものである。

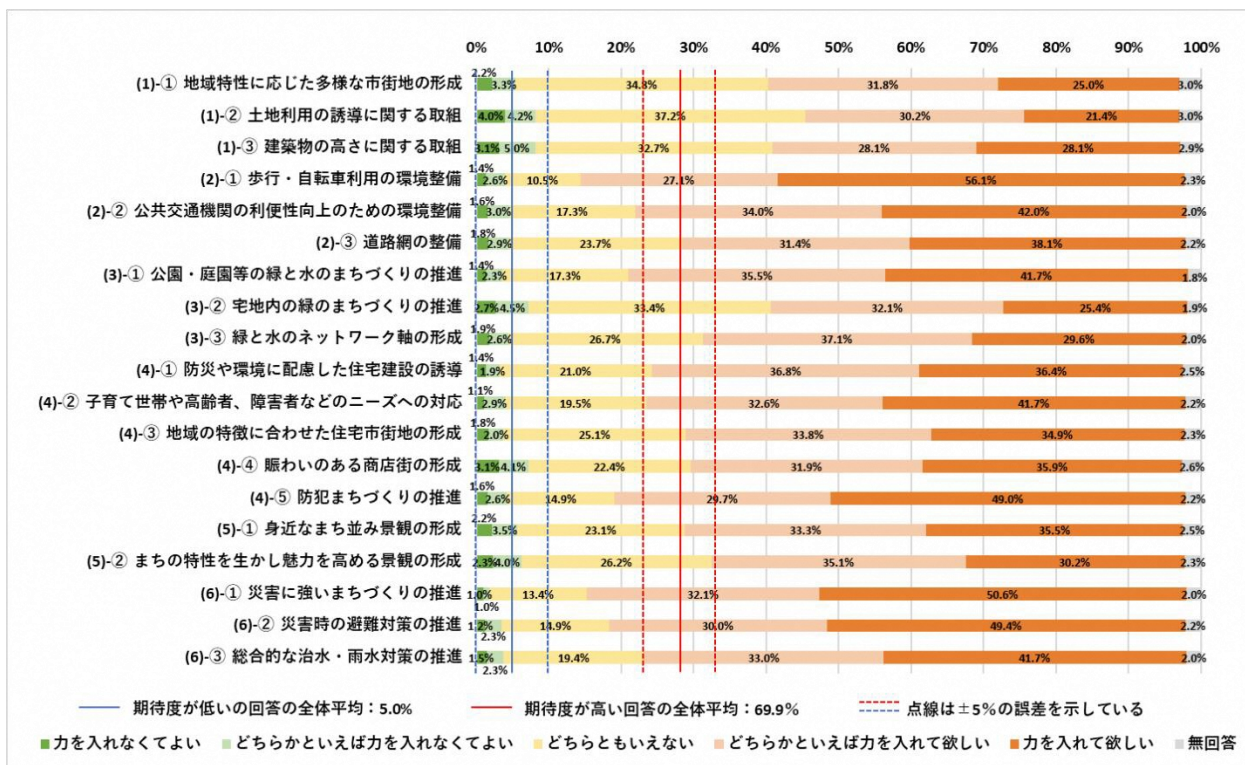
⑤ 区の実施に関する区民の期待度

無作為抽出による区民意識調査と同様に「歩行・自転車利用の環境整備」、「公園・庭園等の緑と水のまちづくりの推進」、「災害に強いまちづくりの推進」に対して力を入れてほしいと答えた回答者が多い。無作為抽出による区民意識調査と比較して、各項目に対する「力を入れてほしい」の回答が鮮明に出ている。

■区の実施に関する区民の期待度



【参考：無作為抽出による区民意識調査の結果】

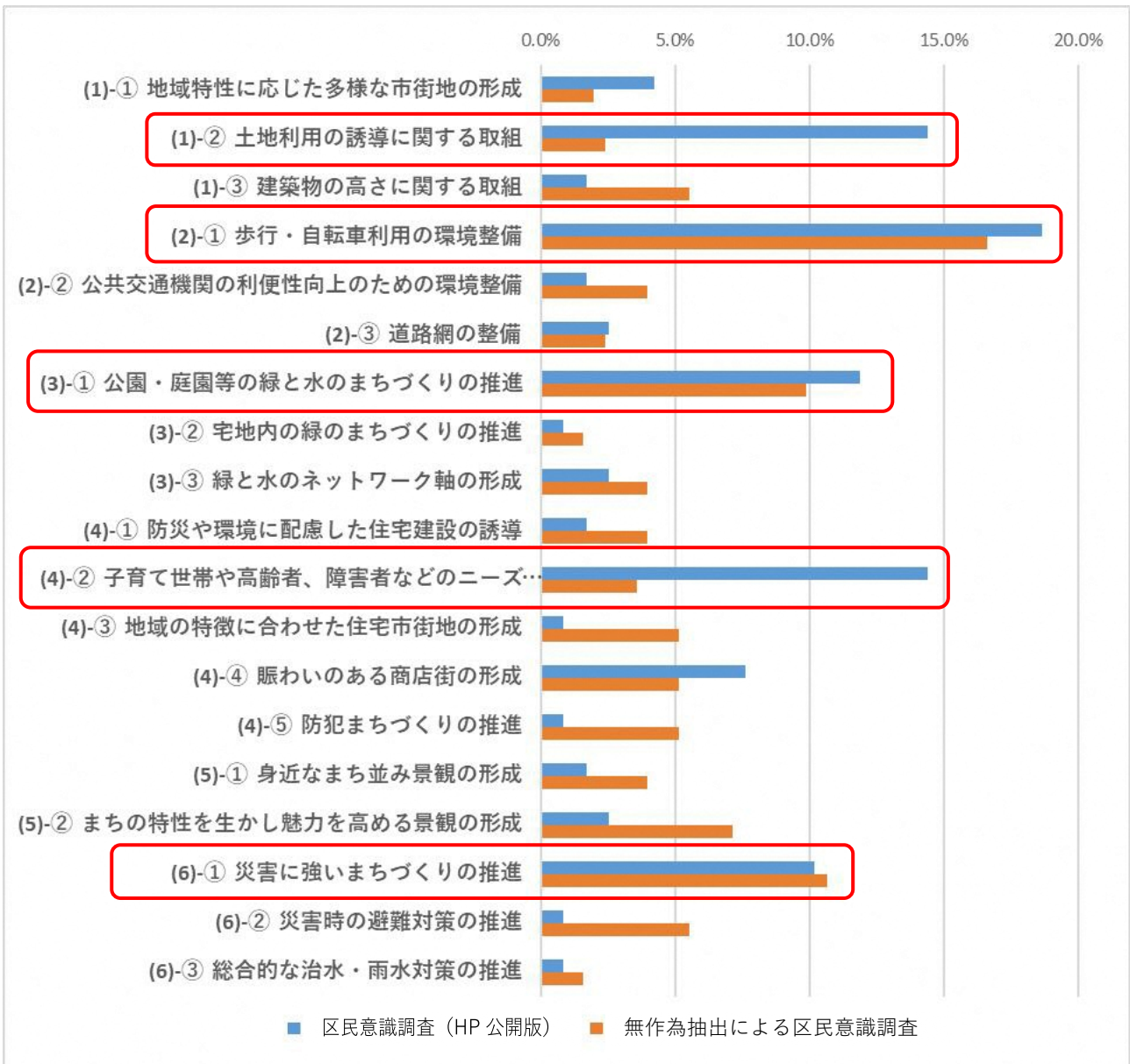


■区の実施について特に力を入れてほしいと感じる項目

※区の実施の19の項目から特に力を入れてほしいと感じる項目があれば選択

無作為抽出による区民意識調査と同様に「歩行・自転車利用の環境整備」について特に力を入れてほしいと答えた回答者の割合が最も高い。その他に、「土地利用の誘導に関する取組」、「公園・庭園等の緑と水のまちづくりの推進」、「子育て世帯や高齢者、障害者などのニーズへの対応」、「災害に強いまちづくりの推進」について特に力を入れてほしいと答えた回答者の割合が高い。

無作為抽出による区民意識調査と比較して、今回は「土地利用の誘導に関する取組」、「子育て世帯や高齢者、障害者などのニーズへの対応」について、特に力を入れてほしいと答えた回答者が多い。



※区民意識調査（HP 公開版）、無作為抽出による区民意識調査の割合は無効な回答を除いたものである。

⑥ 加重相加重平均値による施策評価

■加重相加重平均値の算定手順

満足度		得点	期待度		得点
5. 満足である	→	10点	5. 力を入れて欲しい	→	10点
4. まあまあ満足である	→	5点	4. どちらかといえば力を入れて欲しい	→	5点
3. どちらともいえない	→	0点	3. どちらともいえない	→	0点
2. やや不満である	→	-5点	2. どちらかといえば力を入れなくてよい	→	-5点
1. 不満である	→	-10点	1. 力をいれなくてよい	→	-10点
無回答		欠損値 (得点計算の対象外)	無回答		欠損値 (得点計算の対象外)

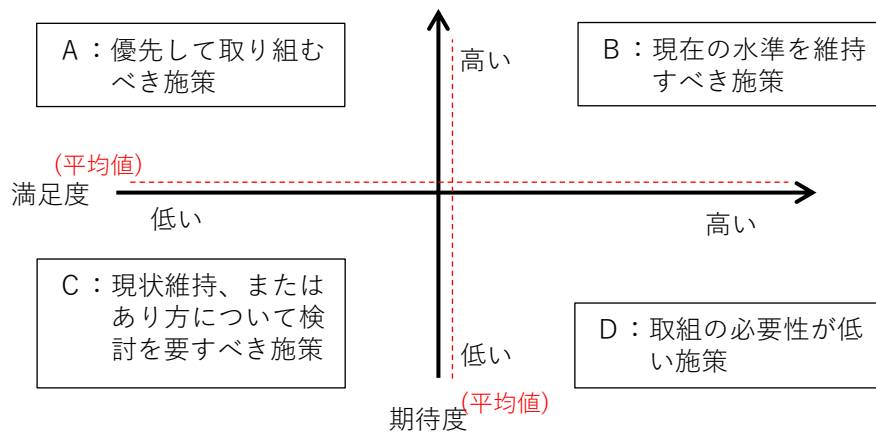
$$\text{満足度・期待度} = \frac{(a)\text{回答数} \times 10 + (b)\text{回答数} \times 5 + (c)\text{回答数} \times 0 + (d)\text{回答数} \times (-5) + (e)\text{回答数} \times (-10)}{(a) \sim (e)\text{回答数}}$$

※例えば、仮に全員が「4. まあまあ満足である」を選んだ場合、その項目の加重相加重平均値は5点となる。

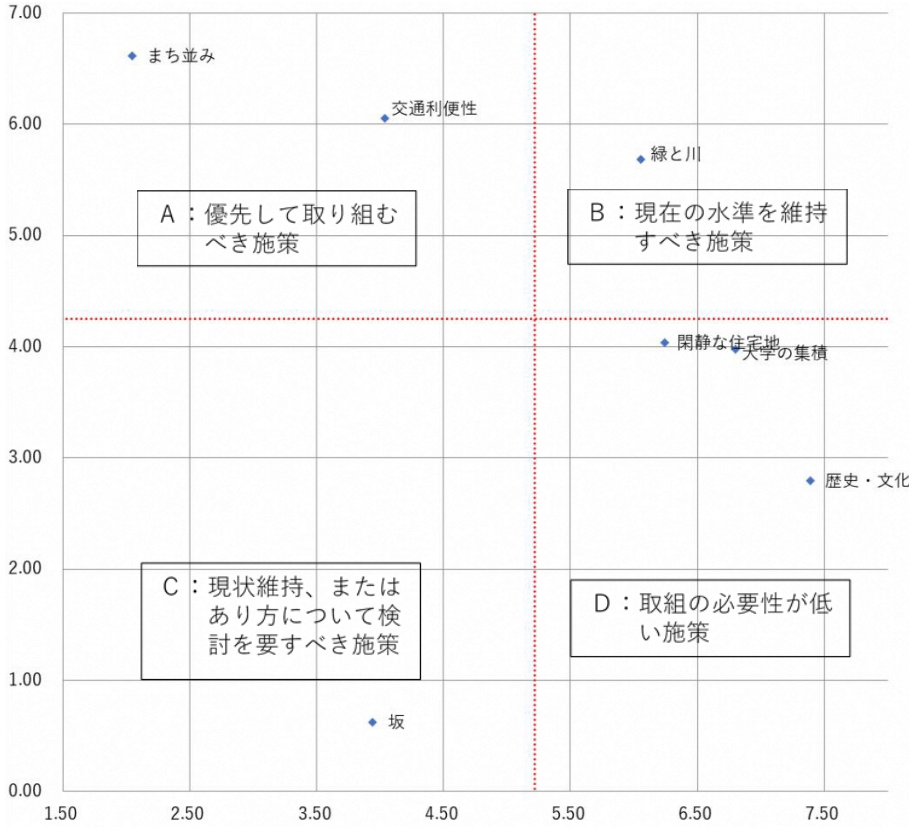
さらに、「満足度」と「期待度」のを加重相加重平均値の関係を下記のグラフに整理して、A～Dの4分類を行った。次ページよりその集計結果を掲載する。

■相対評価

A	満足度平均以下、期待度平均以上（優先して取り組む施策）
B	満足度平均以上、期待度平均以上（現在の水準を維持する施策）
C	満足度平均以下、期待度平均以下（現状維持、またはあり方について検討を要する施策）
D	満足度平均以上、期待度平均以下（取組の必要性が低い施策）

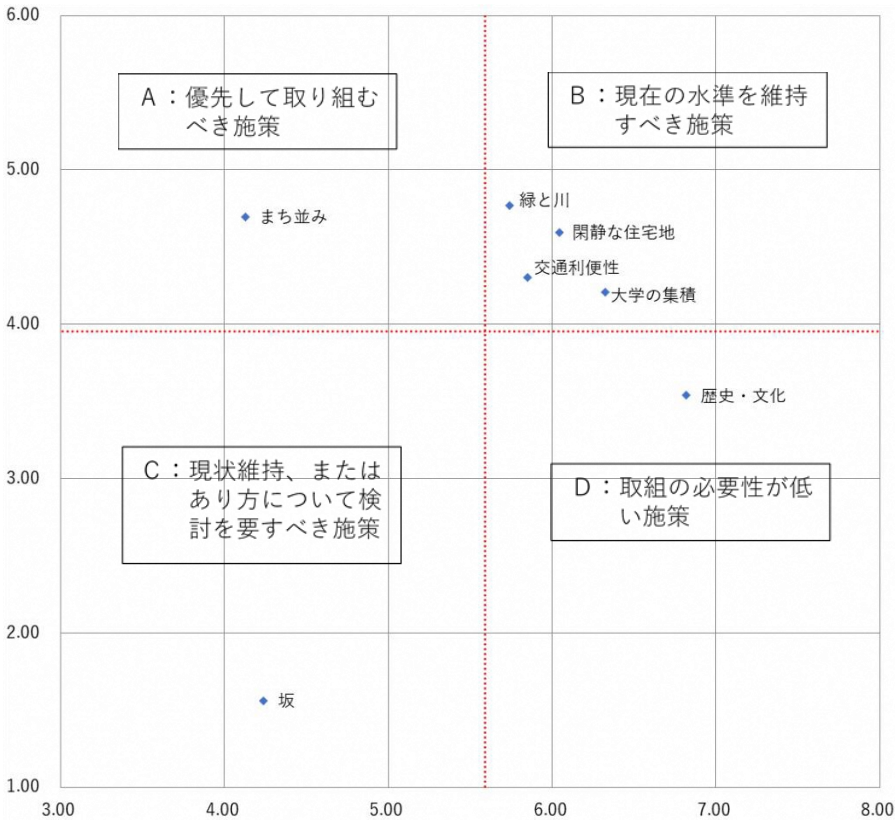


■加重相加重平均値による区の魅力の評価



魅力	評価
交通利便性	A
閑静な住宅地	D
緑と川	B
歴史・文化	D
大学の集積	D
坂	C
まち並み	A

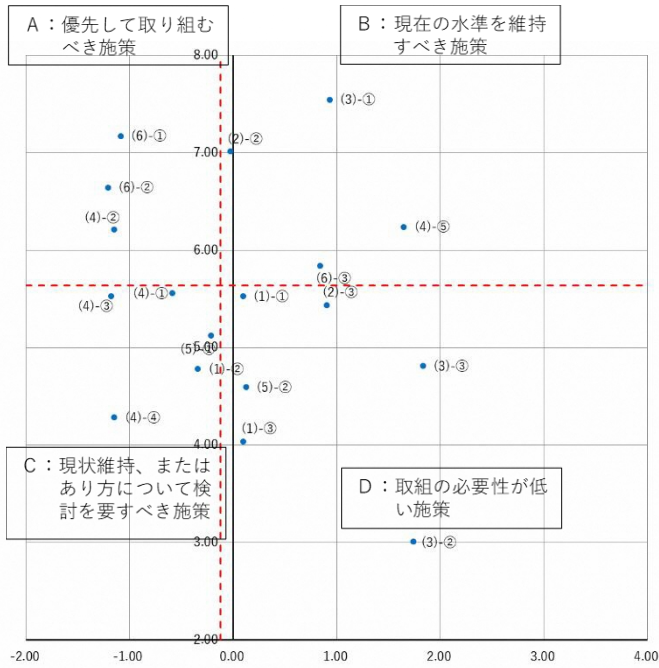
【参考】無作為抽出による区民意識調査の加重相加重平均値による区の魅力の評価



魅力	評価
交通利便性	B
閑静な住宅地	B
緑と川	B
歴史・文化	D
大学の集積	B
坂	C
まち並み	A

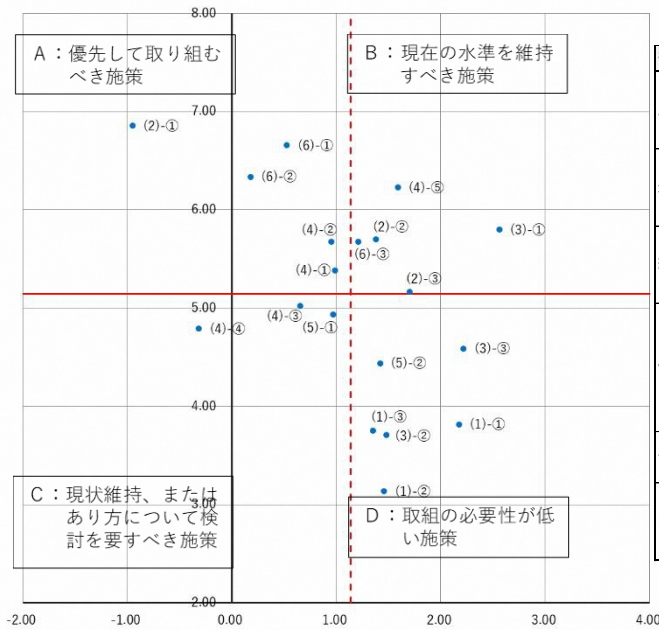
「まち並み」は、無作為抽出による区民意識調査と今回の調査共に、「交通利便性」は、今回の調査でA（優先して取り組むべき施策）の評価となった。

■加重相加平均値による区の実施策の評価



部門	区の実施策	評価
土地利用	(1)-① 地域特性に応じた多様な市街地の形成	D
	(1)-② 土地利用の誘導に関する取組	C
	(1)-③ 建築物の高さに関する取組	D
道路・交通ネットワーク	(2)-① 歩行・自転車利用の環境整備	A
	(2)-② 公共交通機関の利便性向上のための環境整備	B
	(2)-③ 道路網の整備	D
緑と水のまちづくり	(3)-① 公園・庭園等の緑と水のまちづくりの推進	B
	(3)-② 宅地内の緑のまちづくりの推進	D
	(3)-③ 緑と水のネットワーク軸の形成	D
住宅・住環境形成	(4)-① 防災や環境に配慮した住宅建設の誘導	C
	(4)-② 子育て世帯や高齢者、障害者などのニーズへの対応	A
	(4)-③ 地域の特徴に合わせた住宅市街地の形成	C
	(4)-④ 賑わいのある商店街の形成	C
	(4)-⑤ 防犯まちづくりの推進	B
景観形成	(5)-① 身近なまち並み景観の形成	C
	(5)-② まちの特性を生かし魅力を高める景観の形成	D
防災まちづくり	(6)-① 災害に強いまちづくりの推進	A
	(6)-② 災害時の避難対策の推進	A
	(6)-③ 総合的な治水・雨水対策の推進	B

【参考】無作為抽出による区民意識調査の加重相加平均値による区の実施策の評価



部門	区の実施策	評価
土地利用	(1)-① 地域特性に応じた多様な市街地の形成	D
	(1)-② 土地利用の誘導に関する取組	D
	(1)-③ 建築物の高さに関する取組	D
道路・交通ネットワーク	(2)-① 歩行・自転車利用の環境整備	A
	(2)-② 公共交通機関の利便性向上のための環境整備	B
	(2)-③ 道路網の整備	B
緑と水のまちづくり	(3)-① 公園・庭園等の緑と水のまちづくりの推進	B
	(3)-② 宅地内の緑のまちづくりの推進	D
	(3)-③ 緑と水のネットワーク軸の形成	D
住宅・住環境形成	(4)-① 防災や環境に配慮した住宅建設の誘導	A
	(4)-② 子育て世帯や高齢者、障害者などのニーズへの対応	A
	(4)-③ 地域の特徴に合わせた住宅市街地の形成	C
	(4)-④ 賑わいのある商店街の形成	C
	(4)-⑤ 防犯まちづくりの推進	B
景観形成	(5)-① 身近なまち並み景観の形成	C
	(5)-② まちの特性を生かし魅力を高める景観の形成	D
防災まちづくり	(6)-① 災害に強いまちづくりの推進	A
	(6)-② 災害時の避難対策の推進	A
	(6)-③ 総合的な治水・雨水対策の推進	B

無作為抽出による区民意識調査と比較し、施策の評価に関しては、ほとんど同様の結果となった。「歩行・自転車利用の環境整備」、「子育て世帯や高齢者、障害者などのニーズへの対応」、「災害に強いまちづくりの推進」、「災害時の避難対策の推進」は、無作為抽出による区民意識調査と今回の区民意識調査（HP 公開版）共に、A（優先して取り組むべき施策）の評価となった。

⑦ 今後のまちづくりに関する主なご意見

以下に、今回の調査での代表的なご意見を分野別に記載する。

■ 1. 土地利用に関するご意見

- ・住居かオフィスかどちらであるにせよ、これからの社会に高層の建物などそう必要ないと思う。
- ・土地の細分化を防いでほしい。

■ 2. 道路交通に関するご意見

- ・自転車移動がとても便利な場所であるからこそ、自転車が走行しやすい環境を整えてほしい。
- ・子育て世代が多く、子供を乗せた自転車が多いため、安全のためにも自転車道路を増やしてほしい。
- ・駐輪場が足りず、結果的に、狭い歩道に駐輪している自転車があり大変危険である。
- ・少しでも道幅を広げるためにも、無電柱化を進めて欲しい。

■ 3. 緑と水に関するご意見

- ・子供がのびのび遊べる場所を整備してほしい。公園はたくさんあるが、子供の数に対して広さが狭いと感じる。
- ・六義園や小石川植物園、小石川後樂園など有料の緑の施設は充実しているが、無料の身近な公園をどんだん区が主導で土地を買い取ってほしい。

■ 4. 住宅・住環境に関するご意見

- ・良好な住環境保全と若年世代の居住推進に力を入れてほしい。
- ・商店街が中途半端でつまらない。駅前であっても賑やかさはなく買い物できない。おしゃれなお店もない。お土産を買うようなところも少ない。

■ 5. 景観に関するご意見

- ・街並みが汚いので、ヨーロッパ諸国並みの整然とした街並みになってほしい。
- ・建築物の高さ制限を見直し、景観を最優先に考えてほしい。

■ 6. 防災に関するご意見

- ・木造密集地域であり、今後大きな災害が起こったらと考えると不安である。周辺地区のような再開発での課題解決等、早期実現に向けて力を入れてほしい。
- ・古い校舎が中々建て替えにならず、災害に耐えられるのか不安である。
- ・古い建物も多くあり、塀などが崩れると避難時に移動が困難である。
- ・地震だけでなく、神田川の氾濫も怖い。

■ 其他のご意見

- ・マンション 1 階が商業施設でない場合が多く、飲食不可の場所ばかりで街の活性化につながっていない。会社員はランチ難民であり、仕事が終わると繁華街へ行ってしまう。人が集まるイコールくつろぐことができるスペースも必要不可欠だと思う。
- ・目先のことだけを考えるのではなく、30 年、50 年、100 年先の文京区が豊かな街であるために今積み上げるべきことは何なのかを考えてほしい。
- ・可能な限り多くの区民からの意見を聞いてほしい。

⑧ まとめ

今回の区民意識調査（HP 公開版）では、満足度や期待度で「どちらでもない」と回答している割合が少ないが、無作為抽出による区民意識調査と回答の傾向は概ね一致している。基本的には、「道路・交通」、「住宅・住環境形成」、「防災」についての関心が高いことが伺える。また、自由記述では、子育てに関する意見、将来的な都市構造に関連する意見等が多くみられた。

今後は、そういった意見がどのような地域で出ているのかを地域別の方針で生かすことができるように分析していくことが考えられる。